

県南教育事務所
教育情報



令和元年10月9日(水)
No. 7【通巻第146号】
文責：和賀真樹

つまずきに対応した学力向上の取組について

県教育委員会では、第1期アクションプランの「確かな学力の育成」の指標の1つとして、「つまずきに対応した授業改善が行われていると感じている児童生徒の割合」を挙げ、各校における諸調査結果を活用した組織的な取組を推進しています。

そこで、今回の『南風』では、全国学力学習状況調査結果における「解答類型」と「反応率」に着目し、全国と岩手県との間で「反応率」に顕著な違いが見られた問題を取り上げ、「全国学力学習状況調査『報告書』(令和元年7月 文部科学省)」をもとに、課題の分析と授業改善のポイントについて紹介します。

小学校 算数

設問4の(2)

4(2) 次に、はるとさんたちは、観覧車に乗るために列に並んでいます。観覧車のゴンドラは36台で、ゴンドラ1台に1組ずつ乗ります。ゴンドラは1台来るのに20秒かかります。今の先頭はあかりさんたちです。はるとさんは、あかりさんたちの10組後ろにいます。あかりさんたちがゴンドラに乗ってから、はるとさんが何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを考えます。はるとさんがゴンドラに乗ることができるのは何秒後かを求める式を書きましょう。

1 問題の趣旨

示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができるかどうかをみる。

2 解答類型と反応率

(1=◎)

	解答類型							
	1	2	3	4	5	6	99	無解答
自校								
岩手	66.2	0.7	0.2	17.8	2.0	4.0	6.1	3.0
全国	68.6	0.6	0.2	14.3	2.3	3.8	5.8	4.4

1 ◎	20×10 と解答しているもの
2	20÷10 と解答しているもの
3	20+10 と解答しているもの 20-10 と解答しているもの
4	36を使った式を解答しているもの
5	20×11 と解答しているもの
6	20×9 と解答しているもの
99	上記以外の解答
0	無解答

全国と比べ無解答は少ないが、類型4が多い結果である。
(+3.5ポイント)

3 分析結果と課題

解答類型4の中には、「36÷20」や「36×20」などの解答がある。このような児童は、示された場面において、複数の数量から必要な数量を選ぶことができていないと考えられる。

4 学習指導にあたって

多くの情報から必要な数量を選択し、数学的に表現することができるようにする

- ・問題を解決するために必要な数量を選択し、立式する活動を行うこと。
- ・立てた式の意味について説明することができるようにすること。
- ・問題を解決するための見通しをもつことができるようにすること。

中学校 数学

設問5

5 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求めなさい。ただし硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

1 問題の趣旨

確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・事象に即して解釈したことを数学的に表現すること
- ・簡単な場合について、確率を求めること

2 解答類型と反応率

(1=◎)

	解答類型					
	1	2	3	4	99	無解答
自校						
岩手	66.9	10.6	14.2	1.9	3.0	3.4
全国	72.8	7.9	10.6	2.1	3.3	3.3

1 ◎	1/4 と解答しているもの。 (数学的に同値と判断できるものを含む。以下同様。)
2	1/3 と解答しているもの。
3	1/2 と解答しているもの。
4	整数の値を解答しているもの。
99	上記以外の解答
0	無解答

全国と比べ、類型2、累計3が多い傾向にある。
(+2.7、+3.6ポイント)

3 分析結果と課題

解答類型2の中には、2枚の10円硬貨を同時に投げたときの硬貨の表と裏の出方の起こり得るすべての場合は、「2枚とも表」、「1枚が表で1枚が裏」、「2枚とも裏」の3通りであると捉えた生徒がいると考えられる。解答類型3の中には、事象やその起こる確率についての理解が十分でなく、2枚の10円硬貨を同時に投げたときの硬貨の表と裏の出方の起こり得るすべての場合が2通りであると捉えた生徒がいると考えられる。

4 学習指導にあたって

樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする

- ・樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得るすべての場合を落ちや重なりがないように数え上げるといった活動を取り入れること。
- ・どの場合が起こることも同様に確からしいことを、実際に生徒が確認する場面を設定すること。

中学校 英語

設問9の(2)②

9(2) 例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

② <休み明け教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.

(stay) there for two weeks.

A : Wow! Wonderful.

1 問題の趣旨

英語の基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くことができるかどうかをみる。(一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる)

2 解答類型と反応率

(1=◎、2・3=○)

	解答類型									無解答
	1	2	3	4	5	6	7	99		
自校										
岩手	11.5	0.5	7.6	8.3	18.7	9.2	27.6	0.9	15.7	
全国	19.7	0.3	8.9	8.1	17.4	10.7	21.7	0.7	12.6	

1	◎	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書いているもの (正答例) We stayed
2	○	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を書いているが、大文字小文字に誤りがあるもの (正答例) we stayed
3	○	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文ではないが、会話の流れに合う適切な表現となっているもの(例) I stayed
4		過去時制の肯定文としているが、誤りがあるもの
5		過去時制以外の肯定文としているもの
6		類型5までとは異なる肯定文としているもの
7		肯定文となっていないもの
99		上記以外の解答
0		無解答

全国と比べ、類型7と無解答が多い傾向にある。
(+5.9、+3.1ポイント)

3 分析結果と課題

解答類型7の具体的な例としては、以下のようなものがある。

stay stayed staies stay to

問題の指示文を理解できていないか、基本的な語や文法事項等を理解できていないため、会話の流れから1人称複数過去時制の文を主語と動詞という文構造で正しく書くことができていないと考えられる。

4 学習指導にあたって

場面や状況から文の形式や動詞の形(時制)を適切に判断し、正確に書くことができるようにする。

・文を正しく書くためには、言語材料の定着が必要であり、ある程度の量の練習をさせること。

・文脈から適切な文の形式や時制を判断させること。その際、一文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるのではなく、対話や文章の流れからふさわしい文の形式や時制を考える活動を行うこと。



解答類型と正答率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況(どこでつまづいているのか)等に注目した学習指導の改善・充実を図る際に活用できます。

自校の結果を空欄に記入し、分析と対策に御活用ください。

「岩手県民計画(2019-2028)」 第1期アクションプラン指標結果

県では、県民一人ひとりお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指して第1期アクションプランを策定しました。

その具体的な推進方策の目標値として、全国学力・学習状況調査結果を根拠とする下記の2つの指標について、県及び県南教育事務所管内の結果をお知らせします。

◆意欲をもって自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に肯定回答する児童生徒の割合

【小学校】※1 取り組んでいる、2 どちらかといえば取り組んでいる

	H30 実績値	R 元実績値	増減
岩手県	80.9	82.1	+1.2
県南	79.4	81.8	+2.4

【中学校】

	H30 実績値	R 元実績値	増減
岩手県	77.2	78.4	+1.2
県南	75.7	79.3	+3.6

◆授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に肯定回答する児童生徒の割合

【小学校】※1 取り組んでいる、2 どちらかといえば取り組んでいる

	H30 実績値	R 元実績値	増減
岩手県	80.7	78.9	-1.8
県南	79.8	78.4	-1.5

【中学校】

	H30 実績値	R 元実績値	増減
岩手県	80.0	77.8	-2.2
県南	79.0	79.2	+0.2

<学校質問紙調査(岩手県結果)から>

「調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」

小学校	89.5 (児童 82.1)
中学校	83.6 (生徒 77.8)

()内は、同内容の児童生徒質問紙調査結果

主体的に、自らの学習を調整しながら、粘り強く学んでいることを、子どもたち自身が実感できるよう、「学習課題の設定の工夫」や「学びの成果を実感できる振り返り」について、今後も大切にしていきましょう。